

**2020年度山口県岩国市
「発達障害児に対する地域連携支援事業」成果報告書**

1 事業の目的

- ・発達障がい児やその保護者の負担の軽減にむけて
- ・移行支援体制の強化

2 実施団体

社会福祉法人立正たちばな会 川西保育園
山口県岩国市川西1丁目7-3 TEL0827 (41) 0180

3 地域連携支援委員会の設置

<地域連携支援委員会>

	開催日	内容
第1回	令和2年10月27日（火）	発達障がいのある子どもやその保護者への寄り添い 縦横連携間の情報共有にむけて
第2回	令和3年3月6日（土）	支援者の専門性の強化（スキルアップ） 支援の引き継ぎ 情報共有の重要性について

<地域連携支援委員（所属・職名）>

山口県立岩国総合支援学校・地域コーディネーター
岩国市立麻里布小学校・地域コーディネーター
認定こども園川西保育園・園長
認定こども園川西保育園・主幹保育教諭
認定こども園川西保育園・保育教諭
子育て支援センターぽけっと・保育コーディネーター
リボン保育園・主任保育士
リボン保育園・副主任保育士
岩国小学校第2放課後教室・放課後児童支援員

4 地域研修会の実施

(1) 日時 令和3年2月25日（木）18時30分 ～ 20時00分

(2) 会場 川西保育園

(3) 参加者 幼稚園・保育所の教職員43名、医療・保健・福祉機関の職員1名、
教育機関の教職員4名 合計48名

(4) 活動のねらい

- ①発達障がいのある子どもやその保護者の負担の軽減に向けて、ライフステージに携わる支援者の専門性を高める。
- ②支援の引き継ぎ・情報共有体制の強化を図る。

(5) 活動内容

講演：「サポートファイル（支援計画）でつなぐ連携

～連携する上で大切にすること～

講師：くらしき作陽大学 子ども教育学部教授 橋本正巳先生

- ①サポートファイルの活用 一貫性のある関りの大切さ
- ②気づきを促す分かりやすい関り マルチアレンジングサポート
背景を理解…一貫性のある関り
気づきを促す…手間暇がかかるがその手間暇は惜しむべきではない
- ③関わりのポイント
聞くより見る、見るより関わる
注意が集中する間
- ④事例検討 I～IV



(6) 活動の成果と反省点

①活動の成果

- ・子ども自身の心の内面を見ること。探ろうとする心が支援する上で大切という事が分かった。
- ・保育者自身が魅力的であり、引き付ける力を持っていないとダメだし、創意・工夫してより楽しい保育につながるよう努めたいと思った。そのような保育者になるため色々な事に関心を持ち、スキルアップを目指して研修会に参加することへの意義を改めて感じる事が出来た。

- ・ 専門である橋本先生の貴重なお話しは具体的でわかりやすく、支援の原点に戻る事が出来た。
- ・ 事例として困っていることを直接質問することが出来、課題が見つかった。
- ・ 自分の対応の仕方を認めて頂ける言葉がモチベーションにつながった。
- ・ コロナ禍において中止せざるを得ない状況だったが、オンラインで講演して頂け、それぞれのスキルアップにつながった。

②活動の反省点

- ・ 岩国市内全体に向けて教育委員会と一緒に計画を進めていたが、コロナ禍でのソーシャルディスタンスを考え、計画の変更を余儀なくされた。会場変更を行い少人数でのオンライン会議としたが、このような状況下の中、工夫して開催できたことは意義を感じる。
- ・ オンラインでの発言中、声がずれて聞こえる場面が何か所かあり、会話が途切れ途切れになってしまう事があった。今後はオンライン研修のより良い手法を考えていきたい。

(7) 課 題

- ・ 本当に困っているのは子ども自身、私達は子どもに寄り添いわかりやすい具体的・肯定的な関りの実践に向け、もっと取り組まなければと感じた。
- ・ コロナ禍により岩国市内全体での講演が出来ず、当初予定していた市内の多くの支援者と交流を持つことは叶わなかった。そこが大きな課題としては残るが、計画段階では教育委員会に協力を仰ぐことが出来たので、縦の連携・スムーズな支援の引き継ぎ（主に小学校と）を、今回の支援事業を通しもっと強固なものにすべく、今後も模索していきたいと思う。

(8) 今後の展望

今回残念ながらコロナ禍において規模を縮小(オンライン)しての研修となったが、これからも引き続きの取り組みを目指していきたいと思う。園内研修、外部講師による勉強会、地域コーディネーターの訪問指導の継続、そしてこれまでの学びから支援センターぽけっとにて行うぽけっとデー（月一回障がい親子の触れ合いの会）・音楽療法（集団・個別）を設け、今後は日中一時の拡大そして放課後デイサービス（小1～18歳まで）の計画を立ち上げ中である。

今後は縦の連携（主に保育園から小学校へ）を継続して続けていくこと、そして少しずつ拡大し大人になるまで継続して付き添えるサポート体制の実現を目指していきたいと思う。